

## グラン・パラディーズ (gran paradiso)4061m

期間 2013. 8. 10~8. 12

オールマウンテンクラブ

当初はアルベールヴィルから8月3日に走行したプラロニャンへの道を辿ってムティエに向かい、プール・サン・モーリスから山越えでクールマイユールに出る予定であった。しかし、山間道路は時間がかかるのと久しぶりにシャモニに寄ってみようということで、8月9日、ラ・ベラルドからグルノーブルを経てシャモニに入った。シャモニまでは快適な高速道路が通じておりモンブラントンネルと結ばれていた。日本に劣らずヨーロッパを駆け抜ける高速道路網の発達状況に目を見張った。

シャモニの町の中の様子はあまり変化なかったが近代的なビルが建ち周辺には多くの駐車場が設けられていた。もはや登山基地というよりは完全な行楽地と化していた。ロジュールキャンプ場が数年前に閉鎖されたことは聞いていたがこの周辺の様子は一変し特に車の多さだけが目に付いた。

翌日の午前中、シャモニ見学に時間を掛け過ぎ、昼前に出発するとモンブラントンネルに向かう道路の分岐点から車が大渋滞、遅々として進まずトンネルの入り口までのわずかな距離に1時間半近くもかかってしまった。

ゲートに着いて分かったことであるが、車を1台ずつ時間差を設けてトンネルに入れていた。時速は50km~70km厳守、車間を十分空けさせるために時間差を設けていた。これでは渋滞する訳であるが安全のために必要な処理なのだろう。1999年3月モンブラントンネルで死者39名、負傷者27名を出す大惨事が起きている。

ゲート待ちしていると2人の若者クライマーが便乗の交渉をする姿が見えた。交渉はうまく成立しない様子。そのうちこちらにやって来てトンネル出口の先まで乗せてくれと言う。イタリア側からモンブランに登る予定とのこと。トンネルの通行料金を払うと言う。あちこちで断られていたのと若者クライマーに好感が持てたので乗せることにした。

トンネルを出て途中で若者を降ろしてアオスタに向かう。グラン・パラディーズの登山口のポン(Pont)への分岐点を大きく通り過ぎてしまい引き返す。それでもポンのキャンプ場に14時過ぎに到着した。この辺りの地形は開けており夏の日差しを受けてかなり暑い。インフォメーションの小屋とキャンプ場が経営する小さなマーケット、ホテルレストランが1軒だけあった。手前200mのところ数件からなる村があるがスキー場やロープウェイもなく質素な行楽地という印象を受けた。

トンネルを出て途中で若者を降ろしてアオスタに向かう。グラン・パラディーズの登山口のポン(Pont)への分岐点を大きく通り過ぎてしまい引き返す。それでもポンのキャンプ場に14時過ぎに到着した。この辺りの地形は開けており夏の日差しを受けてかなり暑い。インフォメーションの小屋とキャンプ場が経営する小さなマーケット、ホテルレストランが1軒だけあった。手前200mのところ数件からなる村があるがスキー場やロープウェイもなく質素な行楽地という印象を受けた。

グラン・パラディーズは登りやすい4000m峰であるので人気が高い。インフォメーションで明日の宿泊小屋の予約をお願いし、今からでも小屋まで登ることができるがゆっくりすることにした。



モンブランは1786年に征服された。写真は有名なソシュール(モンブラン征服に夢を託し懸賞を設けて応援した)と征服者のジャック・パルマ(シャモニ村の25才の猟師・水晶探検家)がモンブランを指し示している2人の像。もう一人の征服者の医師のミシェル・パカールの像はこの像のすぐ近くに建てられているが、征服から200年後のことである。これにはいわくがある。

## 登山1日目 8月11日

登山口～エマヌエル二世小屋（標高1960m～2735m）

今日の行程は短いのでゆっくり準備して出発する。駐車場から橋を渡り平坦な川沿いの道を歩きその後樹林帯の整備された石畳の道の登りとなる。やがて樹林帯を抜け植生の乏しい道をジグザグに登っていく。先にはグラン・パラディーズの山々が見えるが本峰は見えない。途中1回休憩して登ること2時間弱、エマヌエル二世小屋が視野に入る。小屋は雪対策のためドーム型で外装は金属で覆われている。アルプスの小屋では見かけない造りである。小屋は3階建てで新しい平屋の別棟が1つ建てられていた。私たちは別棟で寝るように言われた。ベッドは3段、知る限り一般的には2段なのでいかに登山者が多いか想像できる。この後もぞくぞくと登山者がやって来た。

小屋の夕食は前菜にミネストローネかパスタを選ぶことができる。デザートの種類も選ぶことができる。さすがイタリアの小屋である。昨年ピッツベルニナに登ったときに宿泊したマルコ・エ・ローザ小屋の楽しい夕食を懐かしく思い出した。



## 登山2日目 8月12日

エマヌエルⅡ世小屋をライトを着けて出発。初めは大きい岩がゴロゴロしている道を先行パーティとケルンをあてに進む。やがて岩尾根の登りとなり歩きやすくなる。氷河に入るところで他のパーティに見習ってアイゼンとハーネスを着けロープを結ぶ。

氷河の傾斜は概ね緩やかで特に危険箇所は見当たらない。多くの登山者が付けた氷河上のトレースを辿って登る。快晴の天気、気温は結構低く感じる。登れどもグラン・パラダイズの山頂は簡単には見えてこない。小高いフラトーに出たところでやっと山頂に続く稜線上のトレースが見えてきた。頂上手前で簡単な岩登りをしなければならないが、すでに大勢の登山者で混雑していた。



先を行く多くの登山者の列  
左奥の岩稜の間にコルが見えるが、尖った  
岩の左の台形状の岩の上にマリア像がある

右の写真は岩場で順番待ちをする  
登山者の列  
ルート上で上る人と下る人とが交錯  
している

このままでは渋滞待ちに時間が取られると判断、マリア像のあるピーク下をトラバースして迂回し、もう一つのピーク（こちらが最高峰）に登ることにした。ほとんどの人はマリア像のピークまでで



止めている。

山頂からはマッターホルン（下の写真の中央右側に見える三角形の山）やモンテローザなどのヴァリスの山々、モンブラン山群、エクラン山群など360度の大展望を満喫することができた。今日も絶好のコンディションを与えてくれたマリア様に感謝しなければならない。この後、マリア像のあるピークに反対側（マリア像の背後）から岩登りして上り記念撮影。さらに同じところを懸垂下降して混雑を避けた。

小屋に戻ってくると相変わらずの賑わい。テラスで多くの人が日差しを楽しんでいた。昨夜の夕食のミネストローネを思い出して注文した。やっぱり美味しい。腹ごしらえをしてからゆっくり下山した。



マリア像のある頂上スペースはわずかしかない



マリア様が見下ろす岩稜

